

Party

Vol.17

発行月：平成28年1月

旭川厚生病院広報誌



目次

1. 巻頭言 院長 森 達也
2. 尋常性白斑、掌蹠膿疱症などへのターゲット型
エキシマライト療法について 診療部長 橋本 喜夫
3. 連携医療機関・関係機関のご紹介 しべつ内科クリニック
4. 第8回 総合相談センター便り 総合相談センター
5. 病院行事紹介 事務部（総務課）
診察受付番号の変更について 事務部（医事課）



JA北海道厚生連の理念

JA北海道厚生連は、組合員ならびに地域住民の皆様のご生命と健康を守り、生きがいのある地域づくりに貢献してまいります。

病院の理念

私たちは、「最も信頼され選ばれる」病院をめざします。患者さまの権利を尊重し、いつでも安心して受けられる医療の提供に努めます。地域住民の健康を守り、農村・地域社会の発展に寄与いたします。

基本方針

1. 患者中心の医療と安全・快適な療養環境をつくります。
2. 高度医療を推進するとともに、総合周産期医療の確立に努めます。
3. 医療機関相互の機能連携を推進いたします。
4. 職員の教育・研修を推進いたします。
5. 経営基盤の強化を図り、健診事業の充実と医療・保健・福祉活動を通じて地域に貢献いたします。

患者さまの権利

1. 人権は尊重されます。
2. 適切な医療を平等に受けることができます。
3. 治療方法を選択することができます。
4. 十分に納得いく説明をお求めにすることができます。
5. 医療上の個人情報は守られます。
6. 転院、紹介を希望される場合、必要な情報は提供されます。



JA北海道厚生連旭川厚生病院

巻頭言

新年のご挨拶

旭川厚生病院

院長 森 達 也



新年明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。日頃から旭川厚生病院をご利用いただきまして心よりお礼申し上げます。

一昨年4月1日付けで院長に就任し、1年9ヶ月が経過しました。院長としては、まだまだ不慣れな事が多く、スタッフに助けられながら病院を運営してきました。今後も、歴代院長が築き上げてきた「地域住民の健康を守り、最も信頼され選ばれる病院をめざす」と言う当院の理念・基本方針に基づいて、皆様が安心して、満足いただける医療を受けられるよう、更なる質の向上に努めて参りますので、よろしくお願いたします。

当院は、昭和63年に現在の地に新築移転し、今年で29年が経ちます。建物の老朽化が所々に見られるようになってきましたが、新しい時代の医療に遅れないように、毎年、最新の医療設備の導入を行い、病院内の改修・改装を行って療養環境の改善に尽くしてきました。

最近では、道北で最初にがん拠点病院として認定を受け、その機能を充実させるために、消化器内視鏡センターの拡張、整備を行い、通院しながら、抗癌剤治療が受けられる

ように外来化学療法室の造設も行ってきました。苦痛の少ない、高精度のがん検査を行うためにPET-CT、高速マルチスライスCT、カプセル内視鏡などの機器も導入してきました。

更に、不幸にしてがんが進行・再発したため、治療方法の無くなった患者さんの身体的、精神的苦痛を緩和することを目的とした緩和ケア病棟もH24年10月に開設しています。

また、当院はがん拠点病院以外にも、ハイリスクの母体や新生児の受け入れをはじめ、小児救急拠点病院・総合周産期医療センターとしての機能の向上にも努めて参りました。その功績を評価されて、H25年には「救急医療功労者厚生大臣表彰」も授与されています。

昨年は、放射線治療装置を更新し、検査件数が多く、すぐに検査ができないため、皆様にご迷惑をかけていたMRI検査装置の2台目を12月に増設することができました。これからは医療設備の充実と療養環境を改善し、医療機器の充実を図ることは勿論のこと、他施設との連携を今まで以上に強化し、地域住民の健康を守り、地域社会の発展に寄与する病院を目指していきます。

本年もどうかよろしくお願い申し上げます。

尋常性白斑、掌蹠膿疱症などへの ターゲット型エキシマライト療法

旭川厚生病院皮膚科 橋本喜夫



1. はじめに

現在皮膚科の光線療法の主体であるNBUB（ナローバンドUVB）療法は増感剤のソラレンも必要なく、簡便なために世界中でPUVAから移行して普及し、当科でも局所型と全身型の両方の機器を使用している。しかしながら正常皮膚にも照射されるために皮膚癌や皮膚老化のリスクが多少なりとも高くなること、頻回および比較的長期間の照射が必要であること、寛解を得るために1週間に1回以上の照射が必要であることなどが問題となっていた。とくに全身型のNBUB照射機であればなおさらのことである。そこで小さな範囲の病変であれば不必要な照射を防ぐことができるターゲット型光線療法が考案され、その中で先行しているのが308nmエキシマライト療法である。当院皮膚科では2011年からエキシマライト療法が導入されたので、その治療効果を紹介する。

2. セラビームの特徴

当院で導入したターゲット型エキシマライト（セラビーム）はエキシマフィルターが装着され、赤くなるだけで治療効果のない波長をカットするためである。NBUBとの違いは、ターゲット型なのでエキシマライトは照射エリアはせいぜいてのひらサイズで小さく、照射時間はNBUBに比較して大幅に短縮される。

3. 光線療法の選択順序

光線療法の選択順序であるが、広範囲の病変であれば全身型のNBUBで治療開始して、残った難治な部分をターゲット型エキシマライトで追加照射することが勧められる。全身疾患ともいえる乾癬や菌状息肉症は制御性T細胞誘導や免疫抑制を考慮して全身照射が勧められるし、局所的疾患ともいえる白斑や掌蹠膿疱症であれば局所の細胞のアポトーシスを誘導するために局所型照射やターゲット型照射を考慮できる。

4. 治療対象と治療効果

効果判定が可能な3か月以上通院して10回以上エキシマライトを照射できた症例は2015年4月までに51例で、うちわけは尋常性白斑20例、掌蹠膿疱症19例、尋常性乾癬2例、円形脱毛症2例、菌状息肉症2例、その他の疾患6例であ



図1 65歳、女
NBUB20回照射後後頭部に白斑残存
セラビーム照射開始前の臨床像

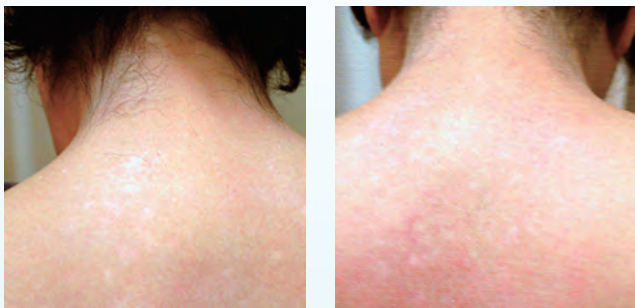


図2 セラビーム15回照射 20回照射 ここで終了する

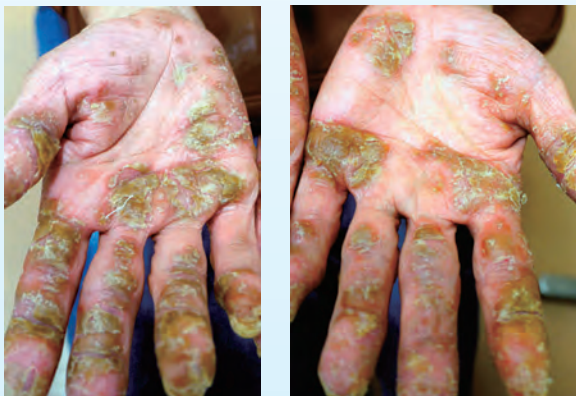


図3 51歳女性：初診時臨床像。セラビーム照射開



図4 初診から6か月後

良好な状態続く
2週間に1回の照射継続。
12回照射後

った、その中で尋常性白斑と掌蹠膿疱症に関して症例数が集積されたので治療効果を判定した。

尋常性白斑著効例：65歳女性。2年前発症。背部、腰部、前胸部に白斑あり、初診時からNB UVBを20回照射するも、後頸部の白斑が残存したためこのみセラビームを開始した(図1：セラビーム開始時)。図2は15回照射後、20回照射後であるが、色素再生著明でここで治療を終了した。尋常性白斑の効果判定は白斑面積が25%以下になれば著効、25~50%で有効、50~75%でやや有効、75%以上残存は不変とした。20例中4例が著効、6例が有効で有効率は50%

であった。

掌蹠膿疱症著効例：51歳女性。2年以上前から出現。近医皮膚科で治療。はじめ水疱ですぐ黄色痂皮化する。食品会社に勤めていて、濡らしたり、手袋着用して、仕事上でも悪化。ベリーストロング外用剤を使用していたのでそのままにして初診時からセラビーム開始。図3は初診時の両手臨床像。図4は初診から6か月後で12回照射時で著効している。掌蹠膿疱症の効果判定は2006年の著者の論文1)に準じて、膿疱新生がほぼ消失して紅斑をふくめて病変面積が20%以下に減少したものを著効。新生膿疱の数が明らかに減少し、病変面積が20~50%になったものを有効、膿疱の新生が減少したものの依然としてあるものをやや有効。膿疱の新生、病変の面積が不変のものを不変とした。19例中著効は3例、有効は7例で有効率は52.6%であった。

5. まとめと考案

掌蹠の病変(掌蹠膿疱症、湿疹局面)や、尋常性白斑難治例、肘膝などの尋常性乾癬には良い適応となり、掌蹠膿疱症は有効率は52.6%、尋常性白斑は有効率は50%である。従来のNB UVBに比べて照射面積は狭いが、選択的に使用すると照射線量、照射回数を軽減でき、治療時間の短縮に繋がる。尋常性白斑は日本皮膚科学会ガイドラインではエキシマライトの推奨レベルはC1となっているが、当院の20例中14例(70%)はNB UVBにより残存した白斑病変を治療しており、その治療効果は少なくともNB UVBと同程度(推奨度B)以上と推察した。円形脱毛症、爪病変に関してはまだ経験例が少ないせいか、有効例を経験していない。

文献

- 1) 旭川医科大学最近17年間の掌蹠膿疱症の統計 一篇摘術の有効性の検討も含めて一、橋本喜夫、飯塚 一、臨床皮膚60：633-637、2006.

連携医療機関・関係機関のご紹介 第8回

当院の紹介と旭川厚生病院との病診連携

しべつ内科クリニック院長 井手 宏

当院の紹介

当院はH24年10月に開院し3年が経過しました。20年程前に3年間勤務した事のある士別市で「まちのお医者さん」として診療をしています。X線撮影装置の他、16列マルチスライスCTを導入しています。他にも、超音波検査装置（技師が心臓、腹部、甲状腺、頸部血管、下肢血管の検査を施行）、スパイロメトリー、24時間心電計、骨密度測定器、睡眠時無呼吸簡易モニター、血球CRP迅速測定装置、血圧脈波検査装置などを備えています。市内唯一の呼吸器科医としてCPAP 44人、ASV 1人、HOT 8人を含め、内科全般の患者さんを診ています。内科、呼吸器科、循環器科の他にアレルギー科を標榜しているためか、皮膚科の患者さんも受診されます。また、小児の受診も多く小学校の学校医も引き受けることになりました。今まで総合病院勤務ばかりで小児を診る機会がほとんどなく、正直を言うと小児を診る自信がありません。現在は、小児科の診療、健診などの本を一番多く読んで勉強をしているところです。地域とともに歩み、上川北部地域の皆様に喜んでいただける医療を目指して、職員一丸となって頑張っています。

病診連携

旭川厚生病院にはH13年10月から開業前のH24年6月まで約10年半勤務しており、医師になってから一番長く勤務していた病院で思い出の多い病院です。今でも、各科によく知っている先生が勤務されており親しみを感じる病院です。また、士別市街で開業している診療所は現在当院を含め5件しかなく、そのうちのしべつ耳鼻咽喉科あらかわクリニックの荒川卓哉先生も厚生病院で一緒に働いたことのある先生です。さらに、厚生病院で一緒に働いたことがあり、現在名寄市立総合病院で勤務している先生も多く心強く感じています。それだけ私にとって厚生病院は親しみを感じる病院であり、紹介を考えた時に真っ先に頭に浮かぶ病院です。特に肺癌が疑われる患者さんはPETがある旭川医大病院が厚生病院を紹介することが多いのですが、希望の病院がない患者さんにはやはり厚生病院を勧めてしまいます。呼吸器科の先生方には、また患

者を送ってきたかと煙たく思われているかもしれませんが、懲りずに自信を持ってご紹介させていただきますので宜しくお願い申し上げます。呼吸器外科の大谷先生におかれましては、直接紹介した患者さんではないのに手術後の経過について、いつも丁寧なご報告をしていただきましてありがとうございます。外科の赤羽先生にもお世話になることがあり、いつもながらの自筆のお手紙をいただき懐かしく感じております。他の多くの科におきましても、厚生病院への紹介を希望される患者さんが多く、安心と自信をもってご紹介させていただいております。今まで、多くの患者さんを快く受けていただいたことに感謝申し上げ、これからも引き続きご指導、ご協力をしていただけることを重ねてお願い申し上げます。



しべつ内科 クリニック



診療科：内科、呼吸器科、循環器科内科、アレルギー科

所在地：北海道士別市東1条9丁目8番地1

第8回

総合相談センター がん相談支援センター便り

旭川厚生病院では、患者さんやご家族の不安や心配などの相談に、いつでも対応できるよう総合相談センターを設置し、助産師・保健師・看護師・認定看護師（緩和ケア、皮膚排泄ケア）・臨床心理士・医療ソーシャルワーカーが、それぞれの専門性を発揮して患者さんを支援しています。総合相談センターは、がん相談支援科・地域医療連携科・入退院支援科・医療社会事業科・療養支援科・病床管理機能を持った多職種組織です。

総合相談センターの活動目標の中に、『地域資源を最も良く知る専門職組織として、院内外への情報発信やネットワークの強化を図る』を掲げています。具体的活動は、地域の皆様へご案内している研修会やセミナーの開催、情報誌発送などです。今回は、今年度後半開催した研修や“**それも総合相談センターがからんでいましたか…**”というものまでご紹介いたします。

エンド・オブ・ライフケア（ELNEC-J）研修

総合相談センターの緩和ケア認定看護師は、この指導者養成プログラムを修了し、平成25年より当院主催で実施しています。市内を中心に同様のカリキュラムを修了した緩和ケア・がん性疼痛看護・訪問看護認定看護師が講師となり、今年度は10月3～4日に開催しました。開催3回で98名の受講修了者が誕生し、地域でエンド・オブ・ライフケアを提供しています。

がん患者の地域医療において、緩和ケアの普及は重要かつ急務な取り組みといわれており、地域がん診療連携拠点病院である当院の大事な役割と考えています。当院のELNEC-J研修は、訪問看護師や施設看護師など在宅に関わる看護師が多いのも特徴のひとつで、研修参加が地域ネットワーク作りにもなっています。また、二日間に渡るボリュームのある研修は今までの知識と実践を総動員するディスカッションや事例検討などが多く、研修の合間にホットひといきつけることも大事と考え、「ふなカフェ」も設置しています。



研修責任者（担当副院長）実施責任者（緩和ケア認定看護師）はじめ講師協力いただいている認定看護師



準備中の「ふなカフェ」

周産期母子支援学習会

当院「周産期母子支援コーディネーターである助産師とMSW」の2名は、院内で徐々に認知され始めその活動域を拡充しつつあります。去る11月4日には院内関係者向けの学習会を開催し、講師として【旭川市子育て相談課の保健師】と【旭川市家庭児童相談課相談係】の方から養育支援の現状を、周産期母子支援コーディネーターの助産師は活動内容を話しました。今後は地域で母子支援に携わるスタッフも交え意見交換ができればよいと考えています。



地域連携セミナー

12月1日【地域包括ケア病棟の現状と課題】というテーマで開催しました。地域包括ケア病棟・病床を实际運用している医療機関担当者から現状説明をしていただき、参加された医療機関からも追加情報をいただきました。今後も地域ケアを模索しながら、一緒に考えていきたいと思います。

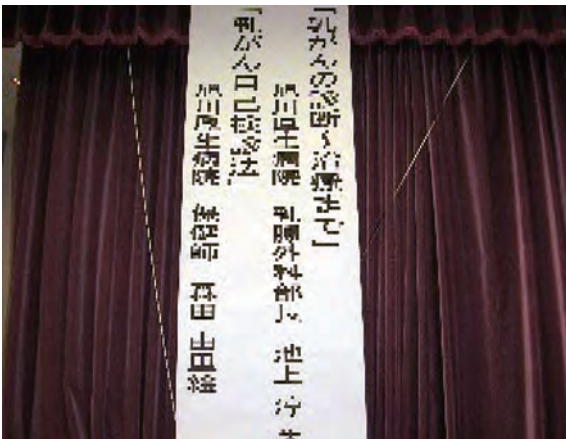
文責：総合相談センター看護管理副部長

舟橋 美智代



ピンクリボン活動 乳がん講演会

ピンクリボン活動の一環として今年度初めて講演会を開催しました。奇しくも芸能人の乳がん公表があった後で検診意識が高くなっていますが、来年も活動を継続します。



ピンクリボンキャンペーンポスター

病院行事のご紹介

旭川厚生病院では様々な行事を行っています。
その中の一部ですがご紹介いたします。

5
月

◆◆看護の日・看護週間イベント◆◆

5月12日の看護の日を含む前後1週間が看護週間とされ、全国各地で様々なイベントが開催されます。

当院でも8日にイベントを開催しました。

イベントブースを設け、手洗い指導や肌水分量チェック、展示物の作成を行いました。

また、「ふれあい看護体験」を実施し、市内の高校生がナース服を着て看護師の仕事を体験しました。



イベントブースの様子



ふれあい看護体験



展示物の一部

6
月

◆◆医療技術体験セミナー◆◆

市内の高校生を対象に、放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技士・理学療法士・作業療法士・栄養士の仕事を体験しました。

当日は白衣を着て、採血体験・顕微鏡観察体験・超音波検査体験・人工呼吸器・電気メス体験・車椅子・松葉杖体験・病院食試食を行いました。

超音波検査体験では職員指導のもと、ゼリーの中にある「もの当てゲーム」を行いました。初めて触る機械に緊張しながら真剣に取り組んでいました。



超音波検査体験



顕微鏡観察体験

12
月

◆◆クリスマスコンサート◆◆

市内で活動を行っている吹奏楽団によるホールコンサートを行いました。

クリスマスの曲から、流行の曲まで演奏がありました。

クラリネット・フルート・太鼓など様々な楽器で迫力ある演奏があり、入院患者さんや家族、職員などがリラックスした様子で聞いていました。



事務部 総務課

診察受付番号が変わりました

従来の診療科別番号から『1患者1番号制』となり、同日に複数科受診の場合も同じ番号でのご案内となります。

受付番号帯

予 約

あり	0001 ~ 5000
なし	5001 ~

[再来受付機]



[受付票イメージ]



複数の受付内容が1枚に印字されます。
その為、すべての診察が終了するまで無くさないようご注意ください。

[診察室表示イメージ]



受付票の番号と診察室へご案内する順番は異なります。

※自動再来受付機での基本操作方法については、大きな変更点はございません。ご不明な点は職員へお問い合わせ下さい。

JA北海道厚生連旭川厚生病院 外来診療体制表

受付時間

新患受付 午前の部 8:15~11:30 午後の部 12:45~15:00

再来受付 午前の部 7:45~11:30 午後の部 12:30~15:00

(診察時間 午前の部 8:30~ 午後の部 下記参照) (小児科一般外来のみ14:00~15:30)

- 各診療科ごとに診療体制が異なります。
下記表の●が一般外来として受診可能な時間帯です。(△は予約制の一般外来です)
(小児科午後の一般外来を受診される方は、新患受付へお申し付けください)
- 特殊外来は予約制です。下記特殊外来一覧をご参照ください。

お問い合わせ 旭川市1条通24丁目111番地3 TEL (0166)33-7171

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
血液・腫瘍内科	●		●		●		●		●	
代謝・内分泌内科	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△
呼吸器科	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△
消化器科	●	△	●	△	●	△ 特殊外来	●	△	●	△
循環器科	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△
神経内科									●	
小児科	●	● 14:00~	●	● 14:00~	●	● 14:00~	●	● 14:00~	●	● 14:00~
外科	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△ 特殊外来
乳腺外科	△		△			△		△ 第2・4	△	△
呼吸器外科	●		●		●		●		●	
整形外科	●		●		●	△	●		●	
産婦人科(婦人科)	●		●		●		●		●	
産婦人科(産科)	●		●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	
皮膚科	●	● 14:00~	●	● 14:00~	●		●		●	● 14:00~
形成外科		● 13:00~	●				●			● 13:00~
泌尿器科	●	△	●		●		●		●	△
耳鼻咽喉科	●		●		●		●		●	
眼科	●				●		●		●	
精神科	休診中									
麻酔科	●				●				●	
放射線科	●		●		●		●		●	
緩和ケア科	●	△	●	△	●	△	●	△		

●特殊外来一覧

〔消化器科〕

肝臓(水) 13:30-16:00 (予約制)

〔小児科〕

慢性疾患(月・火・金)

13:30-15:30 (予約制)

予防接種(月) 13:30-15:00 (予約制)

循環器(水) 13:30-15:30 (予約制)

1ヵ月健診(水) 13:00-15:00 (予約制)

内分泌(木) 13:30-15:30 (予約制)

発達(木) 13:30-15:30 (予約制)

神経(月) 13:30-15:30 (予約制)

(木) 8:30-15:30 (予約制)

乳児健診(金) 13:30-15:00

乳児健診(佐藤Dr)(毎週火・木)

13:30-15:00

午後(一般外来) 14:00-16:00

〔外科〕

ストーマ(第3金) 13:00-16:00 (予約制)

” 【新患可】※

ストーマケア(金) 13:00-16:00 (予約制)

〔乳腺外科〕

乳腺外来(水・木・金)

13:30-16:30 (予約制)

(月・火) 9:00-11:30 (予約制)

〔産婦人科〕

産後1ヵ月健診(水) 14:00-16:00 (予約制)

〔神経内科〕 当院で定期通院中の患者のみ、紹介

を受付

〔放射線科〕

9:00-11:00

※【新患可】以外の外来は予め午前外来受診となり

ます。

※麻酔科、血液内科の診察時間は9:30~11:30と

なります。



JA北海道厚生連旭川厚生病院

〒078-8211 旭川市1条通24丁目111番地3

TEL:(0166)33-7171 FAX:(0166)33-6075

●旭川厚生病院ホームページアドレス

<http://www.dou-kouseiren.com/byouin/asahikawa/>



※PCサイトへ接続されるQRコードの為、うまく表示されない場合があります。